



野菜の連作障害

Q. 野菜の連作障害について教えてください。

A. 連作障害に強い野菜にはサツマイモなど、弱い野菜にはエンドウなどがあります。

連作障害を避けるためには、一定期間栽培を休まないといけません。

《ポイント》

連作障害の主な原因は土の中の病原菌や害虫によるものですが、ほかに根からの生育阻害物質の分泌などが原因の場合もあります。

1 連作障害の出にくい野菜

サツマイモ、カボチャ、コマツナ、ラッキョウ、タマネギ、フキなど。

2 連作障害の出やすい野菜

エンドウ、スイカ、メロン、ナス、トマト、キュウリ、ソラマメ、サトイモ、ゴボウ、クワイ、ハナヤサイ、ハクサイなど。

3 作付けに当って栽培休止を要する年限のめやす

輪作年限	野菜の種類
1年休止	ホウレンソウ、コカブ、インゲンマメ、キョウナ、タカナ、タアサイなど
2年休止	ニラ、パセリー、レタス、サラダナ、ミツバ、ハクサイ、ビート、ショウガ、セルリー、キュウリ、イチゴなど
3～4年休止	ナス、トマト、ピーマン、メロン、シロウリ、ソラマメ、サトイモ、ゴボウ、ハナヤサイ、クワイなど
4～5年休止	エンドウ、スイカなど

4 家庭菜園での対策

連作障害の出やすい種類は、プランターづくりし、庭土や傍土は汚さないように注意して作付け計画をつくってください。



草花の培養土づくり

Q. 冬の間草花の培養土をつくりたいです。要点を教えてください。

A. 手に入りやすい材料で、水もち、水はけ、空気の通り、肥えもちを考えて、植物の性質や環境に合わせて配合します。草花では赤玉土6、腐葉土3、川砂1の割合が標準です。

《ポイント》

専門家は田土や池の底土と特製の堆肥を使います。それらがなければ、赤玉土や腐葉土で代用します。キクの例で見ましょう。

1 キク福助づくりの土

約百日の短期で育てるので、用土は肥えもちのよい重い目の土にします。田土あるいは池底土7に対し、腐葉土3ぐらいの割合で混ぜます。家庭栽培の代用土としては、パーミキュライト、腐葉土あるいはピートモス、砂をそれぞれ等量に配合します。赤玉土はリン酸を吸着しすぎるため、肥料のバランスを崩すので避けます。

2 キク3本づくり（厚物）の土

専門家は田土や池底土に、独自の堆肥を混ぜて使います。田土や池底土は12月頃から地面に広げて寒気にさらしておきます。堆肥は馬ふん、カヤ、落ち葉などを積み上げて(囿)、月1回切返し、2ヶ月以上熟成させ、雨にかからないようにビニルなどをかけておきます。牛ふんやワラはべっとりして仕上がりが悪くなるので使いません。寒ざらしした田土あるいは池底土5に、この堆肥4、もみがらくん炭1と骨粉を添加して混合すると基本的な培養土ができます。

3 生育段階と培養土の使い方

(1) 小鉢上げ（5～6月）…挿し芽苗を4号鉢に上げます。肥料気のない新しい用土を使います。例えば、田土4、腐葉土4、川砂1、くん炭1の割合で配合したもの。

(2) 中鉢上げ（6～7月）…小鉢に根が回ってくるので5～6号鉢に上げます。用意していた基本培養土を使い、肥料を施します。

(3) 本鉢植え（7～8月）…側枝が20cmほどに伸びた頃、8～9号の本鉢に定植します。

基本培養土を使い、さらに、水はけをよくするために粒状のパーライトを加えます。